

まちづくりに市電を生かそう！

欧米には、路面電車を復活させ、都心交通の核として利用している都市がたくさんあります。

札幌の姉妹都市・ミュンヘン(ドイツ)は、札幌と同じ1971年に地下鉄を開業し、路面電車の廃止を進めていました。しかし、財政的な理由などで地下鉄の建設は思うように進まず、方針を変更して路面電車を活用することにしました。

その際、電車が来ると交差点の信号が自動的に青になる『優先信号システム』を取り入れ、スピードアップを図りました。その結果、乗客が大幅に増え、それまで減少していた収入も増加に転じました。さらに、低床車や連接車両を導入して、より多くの人々が電車を利用できるようにしたり、合成ゴムでコーティングされたレールを使用することで、騒音を小さくしたりするなどの工夫をしています。



「札幌LRTの会」副会長
白井 寛 さん

年々利用者が減っている札幌の市電でも、このような改善策を行うことによって、利用者はもっと増えると思います。また、それによって都心部には歩行者が増え、活性化が図られるのではないのでしょうか。

市電は、環境に優しいだけでなく、歩行者の目線に近い、人にも優しい交通機関です。都心の活性化やまちづくりへの市電の活用を、今後も呼び掛けていきたいですね。



市電は今のままでも大丈夫？

市電の魅力が再評価され、活用方法が検討される一方で、市電が抱えている経営状態についても考える必要があります。

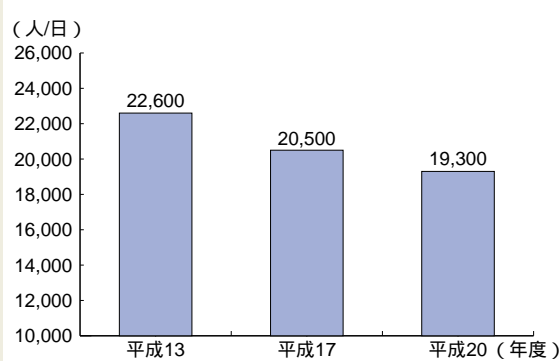
現在、市電の経営状態は非常に厳しく、平成十四年度は二億八千万円の赤字になると見込まれています。

その原因となる利用者の減少は、人口の伸び悩みや少子化などにより、今後も続く可能性があると予想されています。

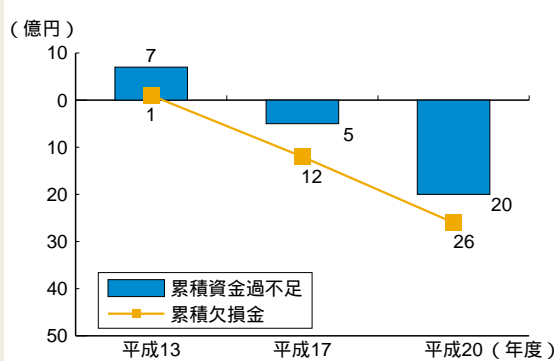
また、現在使用している車両の老朽化が進み、近い将来、新車両を導入する必要が来ることや、工場などの施設・設備も同様に老朽化しているためその改修も必要となり、合わせて百億円を超える費用が掛かると見込まれています。

今後の市電事業の見通し(平成13年「市営交通事業の現状と見通し」)

【1日当たりの乗車人員】



【収支状況】



このような厳しい状態では、今後、市電を今のまま維持していくとすると、将来的に市民の負担が必要となるのです。

区役所のホームページで市電情報をチェック！！

中央区では、ホームページを更新し、動画による市電の乗車体験や市電沿線の公共施設の情報検索ができるページ『市電沿線ぐるっと探検』を新たに設けました。また、『市電倶楽部』では、市電に関するイベント紹介、路面電車に関するホームページへのリンク集など、市電に関する情報を満載しました。

どうぞご利用下さい。

<http://www.city.sapporo.jp/chuo/>

市では、このような現状を踏まえ、平成十五年度末までに将来的な市電の活用方法について基本方針を策定するため、フォーラムや懇談会を開催し、市民や事業者、学識経験者などから幅広く意見を聞くとともに、市民の皆さんによる議論を深めていきます。

また、今年の秋には、市電に親しむ機会として、区と交通局、市電の会によるイベント「市電フェスティバル(仮称)」を開催する予定です。札幌の発展を支え、長く市民に親しまれてきた市電は皆さんの財産です。これを機に、市電の将来について一緒に考えましょう。



市電の将来を考えよう